| 授業科目コード | 教家０１ | 授業科目名 | 教職入門 | 担当教員名 | 尾島　重明 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目 | 1 | 後期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

教員には、いつの時代にも求められる資質能力(不易)と時代が教員に求める資質能力(流行)が必要とされる。今日では、教科の専門性とともに職能的な資質が一層重視される方向にある。特に「反省的実践家」「実践研究者としての教師」等、より高次な実践力を身につけることが求められている。ここでは、現在学校現場が具体的な事象に対してどのような対応をとりながら問題解決を図っているか、具体的に考察する。

**授業の目的・到達目標**

①教育基本法および関連法規の精神を考察する。　②学校知の転換について現状を具体的に把握する。③教師に求められるコンピテンシー（実践力）を具体的にイメージ化する。　④学習指導要領の変遷を多面的に考察する。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | 授業の目的・進め方 | 心構え、教員としての応対、教育改革の潮流等 | |
| 2 | 教職の歴史 | 教員養成の歴史、様々な教職観と教師像 | |
| 3 | 教職の意義と専門性 | 教職の意義、役割、教職の倫理、教職の専門性等 | |
| 4 | 学校教育の仕組み | 学校制度の概要と学校の組織および管理・運営 | |
| 5 | 教職関連法規Ⅰ | 教育基本法を分析 | |
| 6 | 教職関連法規Ⅱ | 学校教育法を分析 | |
| 7 | 教職関連法規Ⅲ | 教育公務員特例法、地方公務員法を分析 | |
| 8 | 学習指導要領の分析 | 学習指導要領を史的に分析 | |
| 9 | 教師の仕事と実際Ⅰ | 校務分掌、教師の仕事の具体的内容 | |
| １０ | 教師の仕事と実際Ⅱ | 教師の仕事と実際 | |
| １１ | 教師の仕事と実際Ⅲ | 教育の時事問題 | |
| １２ | 学校における同僚性 | 校内研修、教職員の力量形成 | |
| １３ | 生涯学習時代の学校教育のあり方、課題 | 教育改革の動向､学校と地域の新しい関係づくりなど | |
| １４ | 進路選択としての教職への道 | 教員の養成・採用・任用 | |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

欠席をせず、受講態度・学習態度が真面目であること。また、与えられた課題などについて積極的にディベートや調べ学習するなど意欲的であること

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | □有り<br>■無し | % |
| レポート | ■有り<br>□無し | 20　% |
| 試　　験 | | 40　% |
| その他（出席状況等） | 出席、受講態度を重視する。 | 40　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕中谷・浪本編著『現代の教育を考える』北樹出版

〔参考書・その他〕

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

号館　　階　　内線

作成年度：2012

| 授業科目コード | 教家０２ | 授業科目名 | 教育原理 | 担当教員名 | 水田聖一 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目 | 2 | 前期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

教育に関する基礎的概念、教育活動における実践原理を体系的に理解することを目的とする。授業では、教育を歴史的にふりかえりながら、教育の意義、目的及び児童福祉との関連性、教育の基礎的概念と諸理論、教育の歴史、教育の制度、教育の実践、生涯学習社会における教育、現代の教育問題などを取り扱い、理解を深める。

**授業の目的・到達目標**

単なる理論的側面の知識だけではなく、保育・教育の実際との関連について学ぶ。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育の歴史と現代 | 古代ギリシャの教育（スパルタの鍛錬主義） | テキスト１章 |
| 2 | | 古代ギリシャの教育（アテネの教養主義） | 〃 |
| 3 | | 古代ローマの教育（キケロ） | 〃 |
| 4 | | 古代ローマの教育（クリンティリアヌス） | 〃 |
| 5 | | ロバート・オウエンの教育思想と実践 | 〃２章 |
| 6 | | ペスタロツチーに見る理想の教師像 | 〃３章 |
| 7 | | シュプランガーの教師論 | 〃 |
| 8 | | ルソーの教育観、人間観 | 〃４章 |
| 9 | | フレーベルの教育観、人間観 | 〃 |
| １０ | | 日本の近代以前の教育（「常民」の子育て） | 〃５章 |
| １１ | | 明治期日本の教育 | 〃６章 |
| １２ | | 近代日本の幼児教育（倉橋惣三の教育思想） | 〃７章 |
| １３ | 現代教育の取り組み | 教育制度：小学校・幼稚園・保育園 | 〃８章 |
| １４ | | 教育経営の実践的課題 | 〃９章 |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

テキストを前もって読んでおくように。ノートを毎回提出
する。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | ■有り　適宜小テストを行う。<br>□無し | 10　% |
| レポート | ■有り　毎回ミニレポートを課す。<br>□無し | 30　% |
| 試　　験 | 授業最終回に試験を実施する。 | 50　% |
| その他（出席状況等） | 出席状況を勘案する。 | 10　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕

生田貞子・水田聖一編著『教師論・保育者論－子育て文化の継承と再発見』(三晃書房)、2100 円

〔参考書・その他〕

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

号館　階　内線

作成年度：2012

| 授業科目コード | 教家０３ | 授業科目名 | 教育心理学 | 担当教員名 | 向出　佳司 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目 | 1 | 後期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

教育に関する多くの課題に対して、いかにして教育効果を高めるかである、そのためにはどのような心理学的知見や技術を用いるかである。教育効果を高める講義を展開していく。

**授業の目的・到達目標**

子どもの教育において、効果的な学習とはどのようなものなのか、また、どのように子どもと関わり、働きかけをしていくのかを考慮するのには子どもの発達や課題を把握することが重要となる。そのため子どもの発達に応じた子どもの援助のあり方を学んでいくことに重点をおき講義を進めたい。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | 動機づけ理論 | 内発的動機と外発的動機について | プリント |
| 2 | 均衡化理論 | 均衡と不均衡についての理論の説明 | プリント |
| 3 | 学習における賞罰の効果 | 達成動機と賞罰の限界について | プリント |
| 4 | 学習の過程と課題分析 | 学習の構造の説明と課題の達成 | プリント |
| 5 | 発達の最近接領域 | 課題解決のための発達の水準について | プリント |
| 6 | 学習方式 | さまざまな学習方法について | プリント |
| 7 | 教授方法 | 実際の授業実践 | プリント |
| 8 | 集団規範 | いい学級集団の特質 | プリント |
| 9 | リーダーシップ訓練 | 集団の目標達成と維持機能について | プリント |
| １０ | ソシオメトリー | 人間関係発見の方法 | プリント |
| １１ | 教育評価（１） | 教育評価の目標と方法 | プリント |
| １２ | 教育評価（２） | 学力とその評価 | プリント |
| １３ | 現代の教育問題（１） | いじめの問題と教育心理学 | プリント |
| １４ | 現代の教育問題（２） | 不登校の問題と教育心理学 | プリント |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | □有り<br>☑無し | % |
| レポート | □有り<br>☑無し | % |
| 試　　験 | 内容や形式について説明する。 | ５０　% |
| その他（出席状況等） | 出席と授業参加度を重視する | ５０　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

号館　　階　　内線

作成年度：２００９

| 授業科目コード | 教家０４ | 授業科目名 | 教育制度論<br>教育制度変遷論 | 担当教員名 | 水田聖一 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目 | 1 | 後期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

学校という制度における目標・内容・方法の変遷の歴史と社会との関係について論じる。

**授業の目的・到達目標**

学校と社会の歴史的変化を知り、子どもと保護者に向き合えるようになる。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | カリキュラム改革の歴史 | 児童中心主義の実践 | テキストに準じる |
| 2 | 〃 | 学校と生活との結合の理想 | 〃 |
| 3 | 〃 | 教育内容の現代化運動 | 〃 |
| 4 | イギリスのカリキュラム | ナショナル・カリキュラムの改革 | 〃 |
| 5 | 我が国の教育改革 | 明治期の教育改革 | 〃 |
| 6 | 〃 | 教育勅語体制下の教育 | 〃 |
| 7 | 〃 | 戦後「新教育」の教育改革 | 〃 |
| 8 | 〃 | 学習指導要領の変遷 | 〃 |
| 9 | 〃 | 民間教育研究運動の発展 | 〃 |
| １０ | 21 世紀の学校と教育改革 | 「学び方を学ぶ」教育とその実践 | 〃 |
| １１ | 〃 | 伝統的教授理論への批判 | 〃 |
| １２ | 〃 | 総合的学習の探求 | 〃 |
| １３ | 〃 | 自立的探求の精神の育成 | 〃 |
| １４ | 〃 | 体験学習・サービスラーニング | 〃 |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

テキストを前もって読み、授業に臨むこと。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | □有り<br>■無し | % |
| レポート | ■有り　　毎回ミニレポートを書いてもらう。<br>□無し | 30　% |
| 試　　験 | 講義内容を論述式で述べるもの。 | 60　% |
| その他（出席状況等） | | 10　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕

柴田義松著『教育課程-カリキュラム入門』有斐閣コンパクト、1890 円

〔参考書・その他〕

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

号館　　階　　内線

作成年度：2012

| 授業科目コード | 教家０５ | 授業科目名 | 教育課程論 | 担当教員名 | 水田聖一 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目 | 2 | 後期 | 2 | 集中 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

学校は、子どもに何を教え、何を学ばせるのか。この「何を」に当たる教育内容を、子どもの必要と社会的必要とに基づいて検討し、構造化し、評価するのが教育課程研究の基本課題です。そのような子どもの必要とは何か、社会的必要とは何かを誰が、どのようにして、何を基準として判断し、評価するかは、重要な教育問題であり、社会問題、政治問題でもあります。この講義では、そのような問題を解決するための思考力を身につけられるよう、歴史的観点など様々な視点から教育課程を考察します。

**授業の目的・到達目標**

教育課程の意義と歴史、教育課程編成の原理と方法、21 世紀の学校と教育課程の改革について学ぶ。
教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育課程の意義 | 教育課程(カリキュラム)の意義 | テキストに準じる |
| 2 | 教育課程の歴史 | 我が国の教育課程の歴史 | 〃 |
| 3 | 〃 | 我が国の教育課程行政 | 〃 |
| 4 | 教育課程編成の主体 | 誰が教育課程を編成するのか | 〃 |
| 5 | 教育課程の編成原理 | 同心円的拡大論、分析と総合、一般と特殊 | 〃 |
| 6 | 発達と教育課程 | 連続的発達、発達段階、障害児の発達と教育課程 | 〃 |
| 7 | 教科書 | 教科書の機能と実態 | 〃 |
| 8 | 教育課程の構造 | 教科指導と生徒指導、教科外活動の役割 | 〃 |
| 9 | 方法論 | 「学び方」を学ぶ教育課程の編成と実践 | 〃 |
| １０ | 教科構成論 | 新しい教科構成論の探求 | 〃 |
| １１ | 現状と課題 | 総合的学習の探求 | 〃 |
| １２ | 〃 | 幼年期教育課程の構成 | 〃 |
| １３ | 〃 | 小学校教育課程の構成 | 〃 |
| １４ | 〃 | 小学校以後の教育課程の構成 | 〃 |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

テキストを前もって読み、授業に臨むこと。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | ■有り　　随時小テストを行う。<br>□無し | 30　% |
| レポート | □有り<br>■無し | % |
| 試　　験 | 講義内容を論述式で述べるもの。 | 60　% |
| その他（出席状況等） | | 10　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕
田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2730 円
〔参考書・その他〕
柴田義松『教育課程-カリキュラム入門』(有斐閣コンパクト、2000 年)

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

| 研究室の場所・学内電話番号<br>号館　階　内線 | |
|---|---|

作成年度：2012

| 授業科目コード | 教家０６ | 授業科目名 | 家庭科教育法Ⅰ | 担当教員名 | 宮﨑　陽子 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目 | 2 | 前期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

家庭科教育の理念や意義について解説し、中学校の技術・家庭科〈家庭分野〉の学習目標、学習内容、指導方法、指導計画などについて理解を深めるための講義をする。

**授業の目的・到達目標**

家庭科教育の理念や意義を認識するとともに、家庭科教員に必要となる基礎的な知識・技術を習得する。具体的には、①中学校家庭科の学習指導要領の内容を理解する。②家庭科の授業づくりの仕組みや各要素を総合的に理解する。③家庭科教育の意義について考察し自分の意見で述べることができる。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の概要や進め方の説明／家庭科のイメージ | 講義資料の配布 |
| 2 | 家庭科教育の意義 | 家政学と家庭科教育／家庭科教育の現代的意義 | 講義資料の配布 |
| 3 | 家庭科の学習目標 | 教科の学習目標／家庭科で育成する能力 | テキスト使用（資料も） |
| 4 | 家庭科の学習内容(1) | 家庭分野の内容①（家族・家庭と子どもの成長） | テキスト使用（資料も） |
| 5 | 家庭科の学習内容(2) | 家庭分野の内容②（食生活と自立） | テキスト使用（資料も） |
| 6 | 家庭科の学習内容(3) | 家庭分野の内容③（衣生活・住生活と自立） | テキスト使用（資料も） |
| 7 | 家庭科の学習内容(4) | 家庭分野の内容③（身近な消費生活と環境） | テキスト使用（資料も） |
| 8 | 家庭科の学習指導(1) | 学習指導の形態と方法 | 講義資料の配布 |
| 9 | 家庭科の学習指導(2) | 家庭科の学習指導の特徴 | 講義資料の配布 |
| １０ | 家庭科における評価 | 教育評価とは／家庭科での評価の特徴 | 講義資料の配布 |
| １１ | 家庭科の指導計画(1) | 学習指導計画作成の意義・種類 | テキスト使用（資料も） |
| １２ | 家庭科の指導計画(2) | 中学校家庭科の学習指導計画 | テキスト使用（資料も） |
| １３ | 家庭科学習指導案(1) | 学習指導案の基礎知識（項目・内容） | テキスト使用（資料も） |
| １４ | 家庭科学習指導案(2) | 中学校家庭科の学習指導案の作成方法と事例 | テキスト使用（資料も） |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

普段から家庭生活や教育に関するニュースや新聞記事等に注目し、情報収集に心がけるなどして関心を高めておきましょう。なお、本授業は「教職課程（家庭科）」に必要となります。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | □有り<br>■無し | % |
| レポート | ■有り　　内容・形式については授業内で説明する。<br>□無し | 15　% |
| 試　　験 | | 70 |
| その他（出席状況等） | 出席状況や受講姿勢も評価の対象とする。 | 15 |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕

・「中学校新学習指導要領の展開　技術家庭科　家庭分野編　平成 20 年度版」（佐藤文子編著、明治図書、2009 年）1890 円

・「中学校新学習指導要領解説　技術・家庭編」（文部科学省、教育図書）

〔参考書・その他〕　授業内で紹介します。

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

３号館　２階　　内線　４２７

作成年度：2011

| 授業科目コード | 教家０７ | 授業科目名 | 家庭科教育法Ⅱ | 担当教員名 | 宮﨑　陽子 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目㊥<br>資格選択科目㊒ | 2 | 後期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

家庭科教育の現代的意義・役割について家庭科教育の歴史や中学生の生活実態を通して解説する。また、中学校家庭科における授業設計や教材研究の方法について具体的に解説し、これからの中学校家庭科の授業づくりの課題等について考察する。

**授業の目的・到達目標**

家庭科の意義や役割を認識するとともに、学習指導案の作成や授業実践を通して、家庭科教員に求められる授業設計力と実践的指導力の習得をめざす。具体的には、①学習指導案を作成することができる②模擬授業で実践力を身につける　ことが目標である。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 講義の概要・進め方の説明／家庭科教員とは | 講義資料 |
| 2 | 家庭科教育の歴史(1) | 女子教育の系譜・家庭科の誕生と展開 | 講義資料 |
| 3 | 家庭科教育の歴史(2) | 男女共学への展開と今日の家庭科教育 | 講義資料 |
| 4 | 中学生の生活実態 | 中学生の家庭生活の実態と家庭科での学習課題 | テキスト・講義資料 |
| 5 | 授業実践の研究 | 授業実践例から授業づくりを考える | テキスト・講義資料 |
| 6 | 学習指導案の作成(1) | １単元分について作成（模擬授業の題材の選定） | テキスト・講義資料 |
| 7 | 学習指導案の作成(2) | （続行作業） | テキスト・講義資料 |
| 8 | 学習指導案の検討 | 作成した学習指導案の検討・完成 | テキスト・講義資料 |
| 9 | 教材研究 | 教材研究の内容と方法 | テキスト・講義資料 |
| １０ | 教材の開発 | 教材・教具づくり | テキスト・講義資料 |
| １１ | 模擬授業　(1) | 作成した指導案に沿って実施と観察 | テキスト・講義資料 |
| １２ | 模擬授業　(2) | 作成した指導案に沿って実施と観察 | テキスト・講義資料 |
| １３ | 模擬授業の振り返り | 授業記録（ビデオ等）を元に評価・指導案の修正 | テキスト・講義資料 |
| １４ | 家庭科教育と教師 | 家庭科教員に求められる資質と学習者への理解 | テキスト・講義資料 |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

普段から家庭生活や教育に関するニュースや新聞記事等に注目し、情報収集に心がけるなどして関心を高めておきましょう。なお、本授業は「教職課程（家庭科）」に必要となります。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | □有り<br>■無し | % |
| レポート | ■有り　　内容・形式については授業内で説明する。<br>□無し | 15　% |
| 試　　験 | | 70 |
| その他（出席状況等） | 出席状況や受講姿勢も評価の対象とする。 | 15 |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕

・「新学習指導要領を読み解く　よくわかる技術・家庭科「家庭分野」　学習指導要領　ビジュアル解説」（友定　啓子・長沢　由喜子編著、開隆堂、2010 年）

・「中学校新学習指導要領解説　技術・家庭編」（文部科学省、教育図書）

〔参考書・その他〕　授業内で紹介します。

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

３号館　２階　　内線　４２７

作成年度：2011

| 授業科目コード | 教家０８ | 授業科目名 | 家庭科教育法Ⅲ | 担当教員名 | 宮﨑　陽子 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科目区分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目㊥<br>資格選択科目㊒ | 3 | 前期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

高校家庭科の意義・役割や学習目標、学習内容等について解説をし、講義をする。高校家庭科の授業設計や教材研究の方法について解説し模擬授業の実践と評価を行う。全体を通してこれからの高校家庭科の展望と課題についても考察する。

**授業の目的・到達目標**

高校家庭科の意義や役割を認識するとともに、家庭科教員に必要な基礎的な知識・技術を習得する。具体的には、①高校家庭科の内容（学習指導要領等）を理解する　②高校家庭科の学習指導案を作成することができる　③高校家庭科の内容の模擬授業で実践力を身につける　ことが目標である。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 講義概要・進め方等説明／家庭科教科書開き | 講義資料 |
| 2 | 高校家庭科の歴史 | 高校家庭科の歴史的変遷と現在の位置づけ | 講義資料 |
| 3 | 高校家庭科の目標 | 教科の目標と育成する能力 | テキスト使用 |
| 4 | 高校家庭科の内容(1) | 学習内容①（家族・家庭／子ども／高齢者） | テキスト使用 |
| 5 | 高校家庭科の内容(2) | 学習内容②（食生活／衣生活） | テキスト使用 |
| 6 | 高校家庭科の内容(3) | 学習内容③（住生活／消費生活・環境） | テキスト使用 |
| 7 | 高校生の生活実態 | 高校生の家庭生活実態と学習課題 | 講義資料 |
| 8 | 学習指導案の作成(1) | １単元分について作成（模擬授業の題材の選定） | 講義資料 |
| 9 | 学習指導案の作成(2) | 作成した学習指導案の検討・完成 | 講義資料 |
| １０ | 教材研究(1) | 教材に関する情報収集・学習方法の検討など | 講義資料 |
| １１ | 教材研究(2) | 教材・教具づくり | 講義資料 |
| １２ | 模擬授業　(1) | 作成した指導案に沿って実施と観察 | 講義資料 |
| １３ | 模擬授業　(2) | 作成した指導案に沿って実施と観察 | 講義資料 |
| １４ | 模擬授業の振り返り | 授業記録（ビデオ等）を元に評価・指導案の修正 | 講義資料 |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

普段から家庭生活や教育に関するニュースや新聞記事等に注目し、情報収集に心がけるなどして関心を高めておきましょう。なお、本授業は「教職課程（家庭科）」に必要となります。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | □有り<br>■無し | % |
| レポート | ■有り　　内容・形式については授業内で説明する。<br>□無し | 15　% |
| 試　　験 | | 70 |
| その他（出席状況等） | 出席状況や受講姿勢も評価の対象とする。 | 15 |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕

・「高等学校学習指導要領解説　家庭編」（文部科学省、開隆堂）

〔参考書・その他〕

・高等学校家庭科（家庭総合・家庭基礎）の教科書等、授業内で紹介します。

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

３号館　２階　　内線　４２７

作成年度：2011

| 授業科目コード | 教家０９ | 授業科目名 | 家庭科教育法Ⅳ | 担当教員名 | 宮﨑　陽子 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格選択科目 | 3 | 後期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

中学校・高等学校家庭科の教育内容について各領域別の概論を解説する。また「授業実践例」を紹介しそれらを分析・検討する中で、現代の生活課題の把握と授業づくりの関係について講義する。教員採用試験を見据えた内容の解説も行う。

**授業の目的・到達目標**

中学校・高等学校家庭科の学習内容を理解することが目的である。また、先進的な授業実践例を分析することを通して、家庭科の学習課題を理解するとともに、授業設計力や教材研究、実践的指導に必要な応用力を養う。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 講義概要・進め方など説明／教員採用試験とは | 講義用資料 |
| 2 | 現代の生活・教育課題 | 現代の生活課題と授業づくりの視点 | 講義用資料 |
| 3 | 中学校の実践例① | 食生活（学習内容と授業事例） | 講義用資料 |
| 4 | 中学校の実践例② | 衣生活（〃） | 講義用資料 |
| 5 | 中学校の実践例③ | 住生活（〃） | 講義用資料 |
| 6 | 中学校の実践例④ | 家族・家庭生活（〃） | 講義用資料 |
| 7 | 中学校の実践例⑤ | 幼児の生活・保育（〃） | 講義用資料 |
| 8 | 中学校の実践例⑥ | 消費生活と資源・環境（〃） | 講義用資料 |
| 9 | 高校の実践例① | 食生活（〃） | 講義用資料 |
| １０ | 高校の実践例② | 衣生活（〃） | 講義用資料 |
| １１ | 高校の実践例③ | 住生活（〃） | 講義用資料 |
| １２ | 高校の実践例④ | 家族・家庭生活（〃） | 講義用資料 |
| １３ | 高校の実践例⑤ | 子ども・高齢者と家族・福祉（〃） | 講義用資料 |
| １４ | 高校の実践例⑥ | 消費生活と資源・環境、家庭経済（〃） | 講義用資料 |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等講義用資料**

普段から家庭生活や教育に関するニュースや新聞記事等に注目し、情報収集に心がけるなどして関心を高めておきましょう。なお、本授業は「教職課程（家庭科）」に関連した科目です。教員採用試験に関する内容を学習します。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | □有り<br>■無し | % |
| レポート | ■有り　　内容・形式については授業内で説明する。<br>□無し | 20　% |
| 試　　験 | | 60 |
| その他（出席状況等） | 出席状況や受講姿勢も評価の対象とする。 | 20 |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕

プリントを配布します。

〔参考書・その他〕

授業内で紹介します。

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

３号館　２階　　内線　４２７

作成年度：2011

| 授業科目コード | 教家１０ | 授業科目名 | 道徳教育の研究<br>道徳教育の理論と方法 | 担当教員名 | 尾島 重明 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目 | 2 | 前期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

今日の子どもたちが置かれている社会の現実をふまえ、学校教育における道徳教育の意義・課題・内容・方法を研究する。

**授業の目的・到達目標**

教育基本法の改正、それに伴う学習指導要領の改訂は、学校における道徳教育にも様々な影響をもたらしている。日本の義務教育学校に「道徳」の時間が置かれていることの意義、道徳の本質、道徳教育の歴史、道徳教育の目標・内容・授業計画、道徳教育をめぐる動向など、「道徳」の授業実践に必要とされる基礎的事項についての理解を深め、「道徳の時間」の授業実践力を培っていく。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料 |
|---|---|---|---|
| 1 | 授業の目的・進め方 | 講義の概説、進め方などの説明。道徳教育の現状と課題 | プリント配布 |
| 2 | 現代社会と道徳問題Ⅰ | 価値観の多様化と現代社会の関連についての講義 | プリント配布 |
| 3 | 現代社会と道徳問題Ⅱ | 現代社会における青少年の状況の講義 | プリント配布 |
| 4 | 道徳とは | 道徳の語義、道徳の本質を講義 | プリント配布 |
| 5 | 道徳教育の歴史的展開Ⅰ | 戦前の道徳教育の講義 | プリント配布 |
| 6 | 道徳教育の歴史的展開Ⅱ | 戦後における道徳教育の講義 | プリント配布 |
| 7 | 道徳性の発達理論Ⅰ | ピアジェの理論、エリクソンの理論を講義 | プリント配布 |
| 8 | 道徳性の発達理論Ⅱ | コールバークとモラル・ジレンマについての講義 | プリント配布 |
| 9 | 学習指導要領と道徳教育の課題Ⅰ | 新学習指導要領の中での位置づけ、改訂の趣旨、目標・内容を講義 | プリント配布 |
| １０ | 学習指導要領と道徳教育の課題Ⅱ | 「道徳の時間」における道徳教育、学習指導案の作成 | プリント配布 |
| １１ | 道徳の授業づくりⅠ | 指導案作成の準備段階 | プリント配布 |
| １２ | 道徳の授業づくりⅡ | 指導案作成・発表 | プリント配布 |
| １３ | 道徳の授業づくりⅢ | 指導案作成・発表 | プリント配布 |
| １４ | 道徳の授業づくりⅣ | 模擬授業・授業展開について、発表、総括 | プリント配布 |
| １５ | まとめ | 授業総括。課題に対する小論文のまとめテスト | プリント配布 |

**履修上の注意・関連科目等**

レポート・テスト及び授業中への関与。私語や居眠り、欠席・遅刻が多い場合には、それだけで単位を認めないことがある。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | □有り<br>☑無し | % |
| レポート | ☑有り<br>□無し | ３０　% |
| 試　　験 | | ４０　% |
| その他（出席状況等） | | ３０　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕　中学校学習指導要領・解説・道徳編（文部科学省）
〔参考書・その他〕　授業中に適宜、紹介する。

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

　　号館　　階　　内線

作成年度：２０１２

| 授業科目コード | 教家１１ | 授業科目名 | 特別活動の研究<br>特別活動の理論と方法 | 担当教員名 | 尾島　重明 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目 | 2 | 後期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

特別活動の目的や教育的意義、性格、内容について講義する。また、特別活動の今日的課題や今後のあり方などについて明らかにし、教員としての創造力や実践力を養う。

**授業の目的・到達目標**

特別活動の理論と実際について理解し、具体的な実践例を通して教員として必要な特別活動の実践的な指導力を修得することを目的とする。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・内容、受講上の諸注意 | プリント |
| 2 | 特別活動の特質と歴史的系譜 | 特別活動の特質、歴史的系譜 | プリント |
| 3 | 特別活動の目標 | 特別活動の目標、内容 | プリント |
| 4 | 特別活動の内容Ⅰ | 学級の意義、学級活動の内容 | プリント |
| 5 | 特別活動の内容Ⅱ | 中学校における学級活動の実際例 | プリント |
| 6 | 特別活動の内容Ⅲ | 生徒会活動の目的、内容 | プリント |
| 7 | 特別活動の内容Ⅳ | 生徒会活動の実際例 | プリント |
| 8 | 特別活動の内容Ⅴ | 学校行事の目的、内容 | プリント |
| 9 | 特別活動の内容Ⅵ | 学校行事の実際例、儀式と教育活動 | プリント |
| １０ | 特別活動と教育課程 | 教育課程における特別活動の位置づけ | プリント |
| １１ | 特別活動と「総合的な学習の時間」 | 「総合的な学習の時間」の創設の趣旨やねらいと特別活動との関連 | プリント |
| １２ | 特別活動と教科指導の関連 | 特別活動と教科指導の関連 | プリント |
| １３ | 特別活動と道徳教育の関連 | 道徳教育の特質と特別活動との関連 | プリント |
| １４ | 特別活動の指導計画作成、評価 | 特別活動の指導計画の必要性、意義と評価 | プリント |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

欠席をせず、受講態度・学習態度が真面目であること。また、与えられた課題などについて積極的にディベートや調べ学習するなど意欲的であること。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | □有り<br>■無し | % |
| レポート | ■有り<br>□無し | 30　% |
| 試　　験 | | 40　% |
| その他（出席状況等） | | 30　% |

**教科書・参考書及び辞典等え**

〔テキスト〕文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別活動編』ぎょうせい　１０９円
〔参考書・その他〕

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

号館　　階　　内線

作成年度：2011

| 授業科目コード | 教家１２ | 授業科目名 | 教育方法論 | 担当教員名 | 水田聖一 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目 | 3 | 前期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

現在学校教育は大きな転換点を迎えている。学校の存在理由、教育の内容や授業実践の様式が問題にされ、教師のあり方が厳しく問われている。そういう時代だからこそ、授業実践そのものをより根源的にかつ包括的に問い直す必要があるように思われる。この授業では、日々の教育を対象化して批判的・反省的に検討しうる新しいまなざしを提供する。これから求められる授業実践(教育方法)への新しい視点をもたらすことにもなる。

**授業の目的・到達目標**

教育方法の歴史と現代の諸実践について学ぶ。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育方法史 | ソクラテスの産婆術 | テキスト１章 |
| 2 | | コメニウスの教授法 | 〃 |
| 3 | | ルソーの教育方法 | 〃 |
| 4 | | ペスタロッチーの開発教授法 | 〃 |
| 5 | カリキュラム論 | 児童中心カリキュラム | テキスト２章 |
| 6 | | 学問性中心カリキュラム | 〃 |
| 7 | | カリキュラム開発の原理と課題 | 〃 |
| 8 | | 子供の発達段階とカリキュラム | 〃 |
| 9 | 授業論 | 問題解決学習・学び方学習 | テキスト３章 |
| １０ | | 仮説実験授業 | 〃 |
| １１ | 教育の技術 | 学習集団作り | テキスト４章 |
| １２ | | メディア・リテラシー | 〃 |
| １３ | 学力と教育評価 | 相対評価と絶対評価 | テキスト５章 |
| １４ | | ポートフォリオ評価 | 〃 |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

テキストを前もって読んでおくこと。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | ■有り　定期的に小テストを行う。<br>□無し | 10　% |
| レポート | ■有り　毎回ミニレポートを課す。<br>□無し | 20　% |
| 試　　験 | 授業最終回に試験を実施する。 | 60　% |
| その他（出席状況等） | 出席状況を勘案する。 | 10　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕

柴田義松・山崎準二編『教育の方法と技術』学文社、1575 円

〔参考書・その他〕

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

| 研究室の場所・学内電話番号<br>号館　階　内線 | |
|---|---|

作成年度：2012

| 授業科目コード | 教家１３ | 授業科目名 | 生徒指導論 | 担当教員名 | 水野 行範 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目 | 3 | 後期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

学校現場には、非行・いじめ・怠学・不登校・中退・校内暴力・学級崩壊などさまざまな問題を背負った生徒たちがいる。ひとりの教師として、また、チームとして、どのように生徒と関わっていけばいいのかを講義や聴き合い・話し合い・ロールプレーなどの実習をとおして実践的理論的に共に探求する。

**授業の目的・到達目標**

受講生自身の経験や具体的な事件を手だてに、また、さまざまな理論や方法論を学ぶ事を通して、自己理解と他者理解を深め、それぞれの受講生自身の中にある生徒を支援し、指導する力をエンパワーすることを目的とする。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | 生徒指導って何？ | ガイダンス（授業の進め方など）この授業で学びたいこと・身につけたい力は何かなど。 | プリントを配布。 |
| 2 | パーソンセンタードの視点から | カール・ロジャーズのパーソンセンタードアプローチの人間観と方法を学ぶ。 | プリントを配布。 |
| 3 | いじめについて考える① | いじめとは何か。なぜ起こるのか。そうすればなくせるのか。 | プリントを配布。 |
| 4 | いじめについて考える② | 具体的な事例をめぐって対処法を考え、話し合い、発表する。 | プリントを配布。 |
| 5 | いじめについて考える③ | 具体的な事例をめぐってロールプレーをして、当事者の内面を理解する。 | プリントを配布。 |
| 6 | いじめについて考える④ | 具体的な事例をめぐってロールプレーをして、当事者の内面を理解する。 | プリントを配布。 |
| 7 | ストレスマネージメント① | リラクゼーションを学ぶ。 | プリントを配布。 |
| 8 | ストレスマネージメント② | ストレッサー・ストレス反応・対処の癖に気づく。 | プリントを配布。 |
| 9 | ストレスマネージメント③ | ストレスの対処法を学ぶ。 | プリントを配布。 |
| １０ | 論理療法 | 非合理的な思いこみに気づく。 | プリントを配布。 |
| １１ | アサーショントレーニングの実習 | 問題解決に向かって肯定的な表現を身につける。 | プリントを配布。 |
| １２ | アドラー心理学を学ぶ① | 具体的な事例についてアドラー心理学を適用する。 | プリントを配布。 |
| １３ | アドラー心理学を学ぶ② | 具体的な事例についてアドラー心理学を適用する。 | プリントを配布。 |
| １４ | コーチングを学ぶ。 | 行動療法などコーチングの基本的な考えと方法を学ぶ。 | プリントを配布。 |
| １５ | まとめ | 授業で取り上げたテーマに関しての論述。 | |

**履修上の注意・関連科目等**

講義を受け身で聞くのではなく、受講生自身が、自分の経験や学習を通して、真剣に、考え、話し、聴き、気づき、記す事を求める。

今ここでの気持ちと考えを大切にして学んでほしい。

シラバスの内容と順番については受講生と話し合い、変更する場合がある。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| レポート | 有り　テーマ「いじめについて」「私の生徒指導論」など、内容・形式等については授業の中で説明。 | 40　% |
| 試　　験 | 内容・形式等については授業の中で説明。 | 40　% |
| その他（出席状況等） | 毎回、自己評価と授業評価をしてもらう。出席点は 20%以内。 | 20　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔参考書・その他〕「学習する自由」

（カール・ロジャーズ＆ジェローム・フライバーグ著・畠瀬稔＆村田進訳　コスモス・ライブラリー2006）

**研究室の場所・学内電話番号**

号館　　階　　内線

作成年度：２００８

| 授業科目コード | 教家１４ | 授業科目名 | 進路指導論 | 担当教員名 | 尾島 重明 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目 | 3 | 後期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

進路指導の目標、内容、方法を具体的・実践的に取り上げ、望ましい進路指導のあり方について講義。

**授業の目的・到達目標**

進路指導は、単なる進学指導や就職指導ではなく、「自己実現」「主体的」「将来像」など、人間の在り方、生き方に関する指導である。本授業では、学校現場に視点を置き、基礎理論、学習指導要領での位置づけ、進路指導体制のあり方、授業の展開方法、進路適正の評価、キャリアガイダンス等を中心に学習を進め、併せて「個人」と「学校・社会」との接点や「人間としての在り方・生き方」をも問い直す授業としていきたい。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料 |
|---|---|---|---|
| 1 | 授業の目的・進め方 | 講義の概説、進め方などを説明 | プリント配布 |
| 2 | 進路指導の歴史Ⅰ | 進路指導の沿革と意義、基本理念の講義 | プリント配布 |
| 3 | 進路指導の歴史Ⅱ | 戦後日本の進路指導､アメリカの進路指導の講義 | プリント配布 |
| 4 | 進路指導と学習指導要領 | 新学習指導要領の中での位置づけ､進路指導の基本原理の講義 | プリント配布 |
| 5 | 進路指導と教育課程 | 特別活動での進路指導計画等の講義 | プリント配布 |
| 6 | 進路指導の基礎理論Ⅰ | 特性論、進路発達理論の講義 | プリント配布 |
| 7 | 進路指導の基礎理論Ⅱ | 開発理論、キャリア教育論の講義 | プリント配布 |
| 8 | 生徒理解の基本的技法Ⅰ | 自己分析法、日記、班ノート作文等の分析 | プリント配布 |
| 9 | 生徒理解の基本的技法Ⅱ | 質問紙法による適性検査 | プリント配布 |
| １０ | キャリアガイダンスの技法Ⅰ | 新しいガイダンスのあり方を講義 | プリント配布 |
| １１ | キャリアガイダンスの技法Ⅱ | 新しいガイダンスのあり方を講義 | プリント配布 |
| １２ | 先進的な進路指導の実践事例 | 先進的な進路指導の取り組みについて紹介 | プリント配布 |
| １３ | 進路相談の実践事例Ⅰ | 課題に即した意見交流・発表 | プリント配布 |
| １４ | 進路相談の実践事例Ⅱ | 意見交流をふまえた総括、授業展開全体の総括 | プリント配布 |
| １５ | まとめ | 授業総括。課題に対する小論文のまとめ | プリント配布 |

**履修上の注意・関連科目等**

レポート・テスト及び授業中の活動への関与。私語や居眠り、欠席・遅刻が多い場合には、それだけで単位を認めないことがある。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | □有り<br>☑無し | % |
| レポート | ☑有り<br>□無し | ３０　% |
| 試　　験 | 内容・形式については、授業のなかで説明する。 | ４０　% |
| その他（出席状況等） | | ３０　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕　指定しない。授業内容にあわせ、適宜プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

| 研究室の場所・学内電話番号 | |
|---|---|
| 号館　階　内線 | |

作成年度：２０１２

| 授業科目コード | 教家１６ | 授業科目名 | 教育実習講義 | 担当教員名 | 石田　要 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教職に関する科目 | 資格必修科目 | 3 | 後期 | 1 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

教育実習の意義を理解し、これまで大学で学習した知識、技能等の総合的理解を深め、実践的対応力・指導力を身につける。

**授業の目的・到達目標**

教職への情熱と責任、教育の専門家としての生徒理解力と指導力の向上、学校組織人としての自覚、学校経営・運営への参画意識、組織の一員として協力する態度、人間関係能力の養成、教育者にふさわしい生き方・品性・人格の向上をめざす。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 受講するにあたって・授業の進め方 | プリント |
| 2 | 教育実習に向けて | 教育実習の意義・目的<br>実習校の決定と準備・実習の実際例・実習校理解 | プリント |
| 3 | 学習指導の<br>理論と実際 ① | 教科指導・教材研究・指導技術について | プリント |
| 4 | 〃 ② | 「学習指導案」の作り方・授業の見方・授業評価 | プリント |
| 5 | 〃 ③ | 「学習指導案」の作成と提出 | プリント |
| 6 | 生徒指導の<br>理論と実際 | 生徒指導の今日的問題・課題、生徒理解・接し方 | プリント |
| 7 | 特別活動・道徳指導 | 指導技術について | プリント |
| 8 | 指導上の配慮事項 | 人権問題、危機管理、部活動の意義・課題等 | プリント |
| 9 | 模擬授業① | 授業力向上のための演習（模擬授業の実践と討議） | |
| １０ | 模擬授業② | 授業力向上のための演習（模擬授業の実践と討議） | |
| １１ | 模擬授業③ | 授業力向上のための演習（模擬授業の実践と討議） | |
| １２ | 模擬授業④ | 授業力向上のための演習（模擬授業の実践と討議） | |
| １３ | 模擬授業⑤ | 授業力向上のための演習（模擬授業の実践と討議） | |
| １４ | 教育実習に向けての<br>心得と準備 | 実習前・実習中・実習後の対応<br>態度、言動、マナー、禁止事項、挨拶など。 | プリント |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

本授業では、実際に教壇に立つために必要な知識・技能・態度を身につけることを目的としていますので、真摯な態度で積極的に授業参加することを希望します。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | □有り<br>☑無し | % |
| レポート | ☑有り　授業の中で実施。授業内容に関連するテーマを主とします。（学習指導案も含む）<br>□無し | 20　% |
| 試　　験 | 内容や形式については、講義の中で説明します。 | 30　% |
| その他（出席状況等） | 出席、授業態度、演習の内容を重視します。 | 50　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕　特に使用しません。
〔参考書・その他〕「中学校（高等学校）学習指導要領　解説－技術・家庭編－」を使用します。
「中学校（高等学校）　家庭科　教科書」

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

号館　　階　　内線

作成年度：２０１２

| 授業科目コード | 教家１８ | 授業科目名 | 教育実習Ⅱ | 担当教員名 | 水田聖一 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|
| 必修・選択科目 | | | | ・ | |

**授業のテーマ・概要**

いい授業展開をするにはどうすればよいのか、いいクラス経営をするにはどうすればよいのか、いい話をするにはどうすればよいのか、などの問題に答える

**授業の目的・到達目標**

板書の仕方、机間巡視の仕方、生徒が退屈し始めたときにどうするか、授業の始まり方、終わり方について学ぶ。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | 授業展開 | 教室への入り方 | テキスト p.3-16 |
| 2 | | 授業の始め方 | 〃 p.17-20 |
| 3 | | 板書の仕方 | 〃 p.21-34 |
| 4 | | 指名の仕方 | 〃 p.35-48 |
| 5 | | 机間巡視の仕方 | 〃 p.49-52 |
| 6 | | 小テストの仕方 | 〃 p.53-68 |
| 7 | | 生徒が退屈し始めたとき | 〃 p.69-74 |
| 8 | | 授業の終わり方 | 〃 p.75-90 |
| 9 | クラス経営 | クラス開きの仕方 | 〃 p.91-104 |
| １０ | | SHR の仕方 | 〃 p.105-120 |
| １１ | | 問題行動について | 〃 p.121-136 |
| １２ | | 服装指導のとき | 〃 p.137-152 |
| １３ | 授業開き | 授業開きでいい話をする | 〃 p.153-170 |
| １４ | | 勉強するときの意味をみいだしかねているとき | 〃 p.171-186 |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | 〃 p.1-210 |

**履修上の注意・関連科目等**

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | ■有り　適宜小テストを行う。<br>□無し | 30　% |
| レポート | ■有り　最終回にレポートを課す。<br>□無し | 60　% |
| 試　験 | 試験に変えてレポートを課す。 | % |
| その他（出席状況等） | 三分の一以上欠席のあるものは、単位は認めない。 | 10　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕

石川保茂著『教師の力』(ミネルヴァ書房)、1890 円

〔参考書・その他〕

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

号館　階　内線

作成年度：2012

| 授業科目コード | 教家１９ | 授業科目名 | 日本国憲法 | 担当教員名 | 杉原　充志 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>６６条の６科目　資格必修科目 | 2 | 後期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

我々の日常生活に身近な刑法、民法の条文にも慣れ親しみながら、それらの基礎（背景）となる日本国憲法の精神について考察する。

**授業の目的・到達目標**

日常生活のさまざまな出来事、人間の営みー「事実」ーから出発し、日本国憲法の理念ー「規範」ーを理解する力を身につける。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | はじめに | 受講のルール、授業の進め方、評価の仕方について | |
| 2 | 「裁判員制度」って？ | 2009 年から始まった「裁判員制度」について | ビデオ |
| 3 | 法律を学ぼう | 法と道徳、基本六法について | パワーポイント |
| 4 | 憲法とは何か | 憲法の特質について | パワーポイント |
| 5 | 基本的人権① | 基本的人権の原理について | パワーポイント |
| 6 | 基本的人権② | 基本的人権の限界について | パワーポイント |
| 7 | 基本的人権③ | 包括的人権と法の下の平等について | パワーポイント |
| 8 | 基本的人権④ | 精神的自由権について | パワーポイント |
| 9 | 基本的人権⑤ | 経済的自由権、人身（身体）の自由について | パワーポイント |
| １０ | 基本的人権⑥ | 受益権と参政権、社会権について | パワーポイント |
| １１ | 統治機構① | 権力分立について | パワーポイント |
| １２ | 統治機構② | 国会、内閣、裁判所について | パワーポイント |
| １３ | 統治機構③ | 地方自治について | パワーポイント |
| １４ | 平和主義の原理 | 憲法 9 条をどう解釈するか？ | パワーポイント |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

下記のテキストは必ず購入すること。遅刻や授業中の私語・携帯電話の使用については、きびしく対処するので覚悟するように。私のモットーは「法律なければ刑罰なく、勉強なければ単位なし！」。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | □有り<br>■無し | % |
| レポート | □有り<br>■無し | % |
| 試　　験 | 資料の持ち込みは一切不可で実施。 | 100　% |
| その他（出席状況等） | 座席指定はしないが、受講者数によっては「気合い席」制度を採用予定。 | % |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕

『学習六法〔第七版〕』日本評論社、2008 年。（定価：本体 933 円）

〔参考書・その他〕

必要に応じて、指示する。

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

| 研究室の場所・学内電話番号 | |
|---|---|
| 1 号館 3 階　内線 224 | |

作成年度：2012

| 授業科目コード | 教家２０ | 授業科目名 | 食品学Ⅰ | 担当教員名 | 日下部　惠子 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教科に関する科目 | ㊒資格必修科目 | 2 | 後期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職家庭科高一種<br>課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

われわれの食生活の基礎にある食品を化学的に理解するために、食品成分の化学的・物理的性質、、食品成分の化学変化、食品成分間の相互作用などについて総括的に講義する。

**授業の目的・到達目標**

食品成分の特性に関する基本的知識を習得して、食品に対する理解を深め、調理、加工、貯蔵・保存の理解と実践につなげる。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | 人間と食品 | 食の歴史的変遷、食物連鎖、食生活と健康、食料と環境 | テキストの該当項目 |
| 2 | 食品の分類､食品成分表 | 食品の分類、食品成分の分析原理、食品成分表 | |
| 3 | 食品の主要成分（1） | 水、タンパク質 | |
| 4 | 食品の主要成分（2） | 糖質 | |
| 5 | 食品の主要成分（3） | 脂質 | |
| 6 | 食品の主要成分（4） | 無機質 | |
| 7 | 食品の主要成分（5） | ビタミン、核酸 | |
| 8 | 嗜好・有害成分（1） | 味の成分、香りの成分 | |
| 9 | 嗜好・有害成分（2） | 色の成分、食品中の有害物質 | |
| １０ | 食品成分の化学変化 | 油脂の酸化、タンパク質の変化 | |
| １１ | 食品成分の化学変化 | 糖質、ビタミンの変化、成分間相互作用 | |
| １２ | 食品成分の化学変化 | 褐変、光・酵素などによる食品成分の変化 | |
| １３ | 食品の物性 | 食品の物性とおいしさ、食品物性の測定 | |
| １４ | 官能評価 | 食品情報と官能評価 | |
| １５ | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

テキスト中心に授業を行う。予習・復習を心がけて、理解を確かなものにする。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | ■有り　　2回の小テストを実施する。(各１０%)<br>□無し | ２０　% |
| レポート | □有り<br>■無し | % |
| 試　　験 | 試験の内容、形式については、授業のときに説明する。 | ６０　% |
| その他（出席状況等） | 出席状況・授業態度の評価。遅刻・早退3回で1回の欠席とする。 | ２０　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕食べ物と健康１　食品学総論　森田潤司・成田宏史　編　化学同人　2009 年　第 8 刷　2400 円

〔参考書・その他〕

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

号館　　階　　内線

作成年度：2012

| 授業科目コード | 教家２１ | 授業科目名 | 家庭電器・機械 | 担当教員名 | 吉田福蔵 |
|---|---|---|---|---|---|

| 科　目　区　分 | | 配当年次 | 実施学期 | 単位 | 曜日・時間 | 開設学科・専攻・コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭科教諭教職課程<br>教科に関する科目 | ㊒資格必修科目 | 3 | 後期 | 2 | 時間割<br>参照 | 教職家庭科高一種<br>課程履修者 |

**授業のテーマ・概要**

家庭の機械と電気機器の原理や構造及び安全性、合理性など、生活者の立場から解説する。

**授業の目的・到達目標**

科学技術の発展により、日常生活における電気機器や機械は新しい方法や良質の材料などが発明、開発されて新製品となる。これらの的確な選択方法や必要な技術知識を習得させ、それを通して生活を豊かにするための工夫、創造力及び実践的な態度を培うこと。

**授業内容・授業スケジュール**

| 回数 | 項目 | 内容（予復習指示等を含む） | 使用資料（プリント等） |
|---|---|---|---|
| 1 | 授業の目的・進め方 | 講義の概要、進め方および機械の歴史、分類 | プリント（1） |
| 2 | 機械の要素と機構 | 定義、要素、自転車、ミシン | プリント（2） |
| 3 | 機械の運動伝達 | カム、摩擦車、歯車、ねじ | プリント（3） |
| 4 | 機械材料 | 種類、金属材料の機械的性質、プラスチック材 | プリント（4） |
| 5 | 電気エネルギーの形 | これからのエネルギー、ルームエアコン<br>ヒートポンプの仕組み、冷蔵庫、ＳＩ国際単位系 | プリント（5） |
| 6 | 電気一般 | 電気の発生、用語と単位、交流の性質、電気回路 | プリント（6） |
| 7 | 直流とオームの法則 | 抵抗の性質、抵抗率と導電率、温度係数と抵抗 | プリント（7） |
| 8 | 交流とは | 周波数、正弦波形、交流の単位 | プリント（8） |
| 9 | 交流回路素子と位相 | 回路素子の種類、位相角、Ｒ、Ｌ、Ｃ直列回路<br>交流電力、発熱と電力量 | プリント（9） |
| １０ | 電流の磁気作用 | コイルの磁束、電磁誘導、トランスと電圧 | プリント（10） |
| 11 | 住宅の電気配線 | 分電盤、漏電遮断器、スイッチ、コンセント<br>電気の図記号、電気料金の計算 | プリント（11） |
| 12 | 電気と食品の加熱 | 電熱器具、電気炊飯器、電子レンジ<br>絶縁材料、導電材料、接点材料 | プリント（12） |
| 13 | 電動機の応用 | 誘導電動機の原理、扇風機、ヘアドライヤー<br>洗濯機、温水便座 | プリント（13） |
| 14 | 情報伝達の機器 | 音の特性、録音、ＣＤ光ビデオ、テレビ、製品の<br>選択基準、仕様書と取扱説明書、講義の総括 | プリント（14） |
| 15 | まとめ | 全体の理解度の確認と授業総括 | |

**履修上の注意・関連科目等**

各回、プリントを配布するので、次回までに必ず復習すること。携帯電話の電源は、講義前には必ず切ること。授業中の私語は慎むこと。途中入室、途中退室は認めない。

**試験と評価**

| 項目 | 内容等 | 評価割合 |
|---|---|---|
| 小テスト | ☑有り　授業の終了後に小テストを実施する。<br>□無し | 15　% |
| レポート | ☑有り<br>□無し | ２０　% |
| 試　　験 | 内容・形式等については、授業の中で説明する。 | ５０　% |
| その他（出席状況等） | 出席（授業態度を含む）を重視し、判定に考慮する。 | 15　% |

**教科書・参考書及び辞典等**

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕池本洋一、財満鎮雄共著「標準家庭機械・電気」理工学社
稲見辰夫著「機械のしくみ」日本実業出版社
伊東雅子著「すぐ役立つ家庭の電気百科」成美堂出版　　など。

**オフィス・アワー**　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

**研究室の場所・学内電話番号**

号館　階　　内線

作成年度：２００９